

学校教育目標	心身ともに健康で思いやりと広い心を持ち、互いに学び合う児童の育成
《本年度の重点目標》	
《重点目標1》	個に応じた学力向上と健やかな心と体の育成を推進する。
《重点目標2》	健康で、安全・安心な学校づくりを推進する。
《重点目標3》	保護者・地域と連携し、信用・信頼される学校として、地域に開かれた学校づくりを推進する。

◆記入にあたっての留意事項

- 「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の実現に向けた指導のポイント<重点取組（施策）編>に示している重点項目から各学校・園で重点においた取組について記載すること
- 取組については、各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること
- 小・中学校においては、今年度選択したスクールプランの様式（新旧様式、または学校独自の様式）の「取組」を位置付けること
旧様式：「学力向上に関する取組」「体力向上に関する取組」「『長欠・不登校対策』『業務改善』に関する取組」「その他学校 独自で設定した取組」を必ず位置付けること
新様式：「子どもの学びに関する取組」「子どもの心の育ちに関する取組」「子どもの体力に関する取組」「『長欠・不登校対策』に関する取組」「『業務改善』に関する取組」
- 評価の例 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度に向けた改善点
子どもの学びに関する	【授業づくり】 ◇<学校生活アンケート>「自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」について、肯定的な回答をした児童の割合【80%以上】	【児童が自分の考えやまとめ・振り返りを書けるようになるための板書やノート指導の研究推進】 ○「授業構想シート」を活用して、ノート指導や板書について以下の視点で研究を推進する。 ・各教科、折東ノート基本フォーマットをもとに、考え方の説明を書いたり、自己の気づきや変容を書いたりする。 ・児童一人一人が「まとめ」「振り返り」をノートに書けるように、本時のまとめに用いるキーワードを板書したり、振り返りの視点を明確にする。 →よい板書例を掲示・提示、参観、交流し共有する。	B	○学校生活アンケート「自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」について、肯定的な回答をした児童の割合が、低学年では達成目標を上回った。 ○折東ノート基本フォーマットを活用し、自分の考えを書いたり、考えの変容を書いたりする意識が高まってきている。 ◆学年が上がるにつれ、学校生活アンケート「自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」について、肯定的な回答をする児童の割合が、低くなる傾向にある。自分の考えをノートに書くことに満足するのではなく、考えを広げる、深めることよ、楽しさを味わうことのできる授業づくりに取り組む。 ◆今年度は、主題研究になかなか取り組みえない状況であった。コロナ対策を十分にとりながら、来年度は主題研究に取り組んでいく。
子どもの心身の育ちに関する	【心の育ち】 ◇<学校生活アンケート>「自分にはよいところがあると思えますか。」について、肯定的な回答をした児童の割合【85%以上】	【自尊感情を高める取組の充実】 ○「北九州子どもつながりプログラム」を計画的・系統的に活用する。 ○日常的な活動を充実させる。 ・よい取組を全校児童に周知（放送、通信など） ・あいさつ運動（運営委員会）※中学校区で連携 ・折東レンジャーマットの取組の継続 ・道徳科の授業の確実な実施と充実 ・朝・帰りの会、学級活動、学年集会等の活用 ○月1回の児童の情報交換会で、学級、学年の状況を報告・確認する。学期末（年2回）に成果と課題を確認する。	C	○自尊感情を高める取組（あいさつ運動、道徳科の授業の充実、学級活動など）に全校で取り組むことができています。 ○1月に「ありがとう週間」に取り組み、各学級で朝の会、帰りの会で友達のよいところを見つけを行い、友達のよいところを紹介した。また、友達への感謝の気持ちを模造紙に書き表し、下足センターに掲示することで、日頃の感謝の気持ちを伝えるとともに自他のよいところを知る、よい取組となった。 ◆「北九州子どもつながりプログラム」を計画的に活用したが、有効的に活用できたかどうか不透明である。職員全体で共通理解を図り、活用するに当たり、十分な教材研究を行う必要がある。 ◆学校生活アンケート「自分にはよいところがあると思えますか。」について、肯定的な回答をした児童の割合が68%と目標を大きく下回った。「ない」と答える児童が固定化しており、全職員で原因を洗い出すとともに、改善策を検討していく。
子どもの体力に関する	【運動習慣】 ◇<学校生活アンケート>「運動やスポーツが好き」の肯定的な回答をした児童の割合【90%以上】	【運動習慣を身に付けさせるための取り組み】 ○毎週火曜日の昼休みは「外で遊ぼうデー」とする。 ・遊び時間の確保、外遊び意識の向上（週1回） ・学級、学年、交流学年のお楽しみ会の実施 ○授業時に柔軟運動、サーキットトレーニングを行う。（体育部提案） ○その他 ・なかよし学年との交流 ・「スポコン広場」への参加 ・体力向上週間（持久走、なわとび）の実施 ・学年毎に「なわとび発表会・走大会」（運動会に代わる大会）を実施し、保護者に公開する。	B	○学校生活アンケート「運動やスポーツが好き」の肯定的な回答をした児童の割合が85%と、若干、達成目標を下回ったが、「体育の授業以外での運動」を問うアンケートでは、肯定的な回答をした児童の割合が80%であった。学校再開後、地道に取り組んできた成果である。 ○11月に運動会の代替行事（折東スポーツデー）を実施したが、運動に触れ合うよい機会となった。折東スポーツデー以後、外遊びをする児童が増えた。 ◆学校生活アンケート「1日当たりのネット利用時間」では、全体の68%の児童が1時間以上と答えている。特に、6年生は81%の児童が「2時間以上」と答えている。学年が上がるにつれ、時間が延びる傾向にある。児童への指導、保護者への情報提供、啓発が必要である。
「長欠・不登校対策」に関する	【長欠・不登校対策】 ◇<学校生活アンケート>「学校に行くのが楽しい」についての肯定的な回答をした児童の割合【85%以上】	【未然防止、早期発見、早期対応】 ・児童の心の状態を把握し指導に生かすために「心と体の何でも相談アンケート」を実施（毎月1回）する。 ・月に1回の児童の情報交換会で、職員相互で児童の情報を共有する。（報連相の徹底） ・家庭との信頼関係を構築し、連携する。 ・チームとして対応する。（児童、職員を孤立させない） ・SC、SSWの活用・連携 ・関係機関との積極的な連携	B	○学校生活アンケート「学校に行くのが楽しい」についての肯定的な回答をした児童の割合が85%と、達成目標に到達した。 ○月1回の児童情報交換会を行うことで、児童の様子を全職員で共有することができ、指導に役立てることができた。 ◆来年度も「心と体の何でも相談アンケート」、「児童情報交換会」を月1回、定期的実施することで、児童の気持ちの安定を図り、職員同士の情報共有、共通認識を図りたい。
業務改善に関する	【業務改善】 ○<学校評価アンケート>「働き方改革、業務改善が進んでいる」について、肯定的な回答をした職員の割合【85%以上】	○働き方改革・業務改善 ・専科指導の活用（図画工作科・理科・社会科） ・教科担任制を意識した持合授業の実施 ・定時退校日の確実な実施（月2回） ・改善に向けた提案・実施（トップダウン・ボトムアップ） ・組織の業務改善、個人の意識改革の深化 ○会議の回数、内容・人数を精選し、短時間で行う。 ○新型コロナウイルス対応の朝の健康チェック、給食時の手洗い・消毒、放課後の施設消毒を徹底し、感染予防を図る。役割を分担してローテーションで実施できる体制を整えたり、学校業務補助員を有効活用したり、教職員の負担軽減を図る。	C	○定時退校日を月2回設定し、確実に実施することができた。職員の在校時間に対する意識改革も進み、在校時間が45時間以内の職員が大幅に増えた。 ◆職員学校評価アンケート「会議の回数、内容」に関する項目では、36%の職員が「課題がある」と回答している。始業前、放課後のコロナ対応もあり、改善が必要である。 ◆職員学校評価アンケート「働き方改革、業務改善が進んでいる」について、肯定的な回答をした職員の割合が65%と、目標を達成することができなかった。様々な場面で、働き方改革、業務改善は進んでいるのだが、職員自身が「進んでいる」と感じる取組となっていない可能性がある。より具体的な話し合いを行い、ワークライフバランスや仕事の仕方に対する意識改革を進めていく。